

三保でバレンクラゲの漂着を確認

文：高山壽彦・写真：横山謙二

4月2日の早朝、三保・真崎の浜で、管クラゲの仲間のバレンクラゲの漂着を確認した。バレンクラゲ *Physophora hydrostatica* Forskal, 1775 は、以前、三保のビーチコーミングで確認されたヨウラククラゲや、ハコクラゲの仲間と同じように、群体性の刺胞動物（管クラゲ）の1種である。

写真で、透明に見える部分は、浮游・遊泳するための器官（泳鐘部）であり、赤色を帯び、触手のように見える部分は、採餌する個虫（栄養体）や、生殖に関与する個虫（生殖体）を保護するための器官（感触体）である。感触体は、群体によって、様々な色彩を呈し、青みがかった紫色であったり、オレンジ色であったりすることもあるという。暖かい海域に広く分布している。



海岸に打ち上がったバレンクラゲ



バレンクラゲ 海水を入れた容器に移し替え撮影したもの